

Plumbing and Airconditioning Consultant 60th



ウェルガーデン春日部(2018年)

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今から60年前、1963年に私たちピーエーシーは建築設備設計事務所として創業しました。その後、長い歴史の中で数々の挑戦と成長を遂げ、建築設備業界での地位と信頼を築いてきました。創業当初は、実質経済成長率が年平均約10%と言われた高度経済成長期真っ只中、建物用途、求められる性能、地域性など、建築設備設計としてのスタンダードな答えのないなか、また、今では考えられないスピード感で世の中(経済)が動く時代に創立したのだと感ずると共に、業界を問わず改め

て、この時代を支えてきた先輩たちの凄さに気づかれました。それから約20年後、バブルと言われた時代の終盤、1980年代後半に私は入社しました。1990年前後は、新たな設計技術や表計算ソフトを積極的に導入、またCADを使用し、より効率的で先進的な設計手法を取り入れていきました。これにより、設計の精度と効率性が向上し、お客様への満足度をさらに高めることを目指してまいりました。

ドイツ・ベルリンで開かれた「COP1」を皮切りに2000年以降は、環境への配慮と持続可能性に重点を置いた設計に取り組み始めたんです。省エネルギーリユースや再生可能エネルギーの活用など、地球環境に貢献する設計を推進しました。日本は、1973年の第一次オイルショックを契機に省エネへの関心が高まってはいますが、この頃から設計への取り組みが大きく変わり始めたと思っています。その後、2011年、また大きな爪痕を残し、復興と回復途上ではありますが、「東日本大震災」を経験し、さらにその意識が強くなったように思います。また、それと同時に震災、防災、減災対策も設計を進めて行くうえで、重要な項目となりました。

そして現在、2020年初めにパンデミックを起した新型コロナウイルス、また予測を許さず、人が落ち着きを取り戻してしました。皮肉にも新型コロナウイルスの拡大に起因する製造業の生産量減少、旅客及び貨物輸送量の減少等、経済活動の低迷によりエネルギー消費量が減少し、結果的に温室効果ガスの排出量も減少しました。しかし、経済活動の活性化と同時に温室効果ガスの排出量が8年ぶりに増えたとぞうです。ちなみにピーエーシーが創業した1960年代と比べると、温室効果ガス発生量は3倍近くに達しています。その温室効果ガス抑制は、私たちの業界で大きな課題(目標)の一つです。2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」または「脱炭素」です。

「環境と人に優しい」技術者集団へ

ピーエーシー 創立60周年



株式会社ピーエーシー代表取締役 武井 一義

持続可能なソリューション提供

沿革	
1963年	(株)PAC技術士事務所開設 千代田区神田神保町に事務所設立 初代社長に仲田潔が就任
1969年	千代田区内麹町の第二藤井ビルに事務所移転
1976年	長野支所開設
1980年	仙台支所開設

1993年	社名を(株)ピーエーシーに変更 2代社長に斎藤豊が就任
1994年	千代田区内麹町のNKビルに移転
1997年	3代社長に青木健三が就任
1999年	江東区亀戸の立花亀戸ビルに移転
2006年	4代社長に時田由起雄が就任
2007年	名古屋連絡所開設
2011年	5代社長に武井一義が就任
2012年	台東区浅草橋に事務所移転 現在に至る

能なソリューションの提供に注力し、お客様のニーズに応えるために努力していきます。これからも、お客様の信頼と満足度を最優先に考え、高品質な設計とサービスの提供に取り組み続けます。変わりゆく時代に対応しながらも、創業の精神と情熱を持ち続け、建築業界の発展に貢献してまいります。創立から今日まで皆様のご支援とご指導に心より感謝申し上げます。また、今後もより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大和徳洲会病院(2018年)

時代を導き、建物の未来を支えていく。

100th Anniversary

建築設備の総合エンジニアリング企業

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-1 (丸の内パークビルディング)
TEL.03-3201-0319 https://www.saijyu.co.jp

齋久工業株式会社

快適を造る、未来を創る

水へ、空へ

営業内容
空気調和設備工事・給排水衛生設備工事・防災設備工事
環境衛生設備工事・リニューアル設備工事

経塚工業株式会社

本社:東京都豊島区奥町1-41-11 〒170-0002
TEL.03(6902)5055(代) FAX.03(6902)5066
支店:札幌・仙台・大阪 営業所:歌志内・埼玉・沖縄

APEC

株式会社アペックエンジニアリング

空調・衛生・電気・建設・総合建設設備業
戸田建設グループ

本社 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-7
電話(048)650-7770 FAX(048)650-5533
東京本部 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-6-1
電話(03)6222-2830 FAX(03)6222-2840

人と地球の心地良いをつくる

楽しく考えたい、空気・水・熱のこと

朝日工業社

地球にいいことしています

「アスファルト防水の仕様」屋上防水に使用する全仕様が環境対応型防水工法です。

NEW

アスファイン工法
改質アスファルト防水完全常温粘着工法
改質アスファルトルーフィングを粘着層によって、下地に張付ける環境配慮型改質アスファルト防水工法です。ルーフィング表面は高耐候性フィルム仕上げとすることで、意匠性が大幅に向上します。

クリンアス工法
環境配慮型常温積層アスファルト防水工法
常温で施工可能な湿気硬化型アスファルト「クリンアス」を使用して改質アスファルトルーフィングを積層する常温複合工法です。

ピロウエルド新熱工法
環境配慮型アスファルト防水工法
低煙・低臭タイプの防水工事用アスファルト「シグマート」を使用してアスファルトルーフィング類を積層する環境配慮型アスファルト防水工法です。

総合防水材料メーカー
日新工業株式会社
営業統括部 〒120-0025 東京都足立区千住東 2-23-4
TEL.03-3882-2571 FAX.03-3881-8545
https://www.nishinkogyo.co.jp/

日本アスファルト防水工業協同組合
TEL.03-6806-2666 FAX.03-6806-2667
https://www.nihon-as.or.jp/

風を感じない空調

空調機と接続し、熱放射と体を感じない程度の気流で温度ムラの無い快適空調を実現する空調吹出しユニット

放射整流パネル
アルミ製蓄熱放射フィン

放射整流パネルに空調面積相当のアルミ製蓄熱放射フィンを内蔵、距離減衰の無い「放射」と微少気流の「整流」で床や壁まで均一に熱伝達します。

詳しくはコチラから

空気式放射整流ユニット 誘引エアビーム

空気式低風速放射空調吹出しユニットに関するJISが制定されました。(JIS B 8640)

木村工機株式会社 東京営業本部 050-3648-5695
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2-1(新大手町ビル7階)
www.kimukoh.co.jp

サステナブル設備



奥田理事長

世の中のニーズで
状況は違ってくる

鼎談

一般財団法人 建築保全センター理事長 奥田 修一氏

芝浦工業大学建築学部建築学科教授 蟹澤 宏剛氏

株式会社ピーエーシー代表取締役 武井 一義氏

日本は、長きに渡って新築・新設を中心に備えてきました。ただ、近年前から世帯数を住宅ストックの方が超えている訳です。空き屋問題とか、カーボンニュートラルの話とか、特に最近では地方の活性化なども含めて、急に重要なテーマになってきました。武井 氏がピーエーシーに入社した90年頃は、基本的には新築がかなり多く、ストックに対する意識も薄く、た

「持続可能性」は様々な分野で一般化しています。建築保全センターは設立から40年以上が経過しましたが、当時とても斬新な組織であったと思います。奥田 建築保全センターが設立したのは1987年です。その頃、ストックの有効活用は、アイデアとしてはありましたが、大きな声で言われるほどの関心の高いテーマではありませんでした。直接のきっかけは、ナショナルプロジェクトであった筑波研究学園都市がその時期に概成したこと。世界水準の研究施設をどのように維持・保全していくかという問題意識があり、建築保全センターが生まれたのです。その後、建築投資は80年代、90年代と続きましたので、建築ストックも相当積み上がっていき、その有効活用の重要性も増してきました。そういう意味では、われわれの先輩は少し先見性があったのかなと、手前みそですけれど、そんな感じがします。

「会社」 建築教育の場で「保全」が研究テーマとなったのは、いつ頃でしょうか。蟹澤 なかなか難しいところです。日本は、長きに渡って新築・新設を中心に備えてきました。ただ、近年前から世帯数を住宅ストックの方が超えている訳です。空き屋問題とか、カーボンニュートラルの話とか、特に最近では地方の活性化なども含めて、急に重要なテーマになってきました。武井 氏がピーエーシーに入社した90年頃は、基本的には新築がかなり多く、ストックに対する意識も薄く、た

「会社」 「持続可能性」は様々な分野で一般化しています。建築保全センターは設立から40年以上が経過しましたが、当時とても斬新な組織であったと思います。奥田 建築保全センターが設立したのは1987年です。その頃、ストックの有効活用は、アイデアとしてはありましたが、大きな声で言われるほどの関心の高いテーマではありませんでした。直接のきっかけは、ナショナルプロジェクトであった筑波研究学園都市がその時期に概成したこと。世界水準の研究施設をどのように維持・保全していくかという問題意識があり、建築保全センターが生まれたのです。その後、建築投資は80年代、90年代と続きましたので、建築ストックも相当積み上がっていき、その有効活用の重要性も増してきました。そういう意味では、われわれの先輩は少し先見性があったのかなと、手前みそですけれど、そんな感じがします。

将来見据えた社会貢献の成果期待



日本建築士事務所協会連合会会長
見玉 耕二氏

ピーエーシーが今年創立60周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。これまで設備設計業務においてクライアントの要望の実現に努められるとともに、建築設備の技術力向上、先進的技術提案に熱心に取り組まれ業務を展開されてきました。こうした業務を通してクライアントの理解と信頼を得て、60年という長きに亘り業務を継続されて来たことには敬意を表しますとともに心より喜ばしく思います。いま国を挙げて「カーボンニュートラル2050」を目指してのグリーン化が促進されています。専門家も市民も省エネ推進や脱炭素化への寄与の意識が求められており、業界も実際に建築の木造木質化の推進を含め省エネの徹底普及が急がれるとされています。特に建築設備の改修改善による脱炭素化への貢献が期待されています。またDXによる業務効率化が急速に進展し常態化しつつあり、デジタル環境の整備やネットワークの拡大

整備が不可欠となっています。建築設計のプロセスではBIMの活用は今後急速に進んでくるものと思われませんが、BIM活用は効果という意味では建築物のライフサイクル全ての段階での活用が必要です。ランニングコストや建築物の維持・更新に関連する建築設備におけるBIMの効果は大きいものがあると期待され、活用促進が望まれるところです。ピーエーシーが創立されたのは1963年、まだ設備設計事務所がそれほど多くないころの先駆的な存在でした。当時は東京五輪1964を目指して東京の『インフラ』改修が進む高度成長の時代であり、多くの新しいビルが建設されました。その後半世紀を経て成熟期となり、いまや建築物の長寿命化やストック活用に力が注がれるようになってきました。昨今では、インフラ改修が叫ばれ、東京五輪2020をきっかけにしてユニバーサルデザインや東京の街づくりが進みました。さらにこれからは脱炭素化の推進を目指し、地球環境を考えて進む『環境』がテーマの主役になってくると思われます。今年創立60周年を迎えるピーエーシーの歩みに、時代が漸く追いついてきたようにも思われます。これまで培ってきた技術力の上に、新築ビルでのZEB化や既存建築物の改修による脱炭素化への積極的取り組みなど、将来を見据えた取り組みが今後社会に大きく貢献する成果を生むものと期待しております。カーボンニュートラル2050に向けて設備設計界を力強く牽引していただけるものと確信しております。

研究支える環境設備発展に貢献



高エネルギー加速器研究機構
物質科学センター
研究開発部
環境工学
千田 俊哉氏

このたび、ピーエーシー様が創立60周年を迎えられたことを心よりお慶びを申し上げます。私は、高エネルギー加速器研究機構（KEK）において構造物理学と呼ばれるライフサイエンス分野の研究をしており、建築関係とどのような繋がりがあられるのか不思議に思う方もいらっしゃると思います。これは人と人の繋がりがあってのことで、まずはその話をさせていただければと思います。以前、東京の月島に「みかん」というお店がありました。いろいろな人が集うお店で、東京の研究所で働いていた頃に足繁く通って仲間と語り合っていました。ある日、ひょんなことからKEKの工事を請け負ったことがあるというお客様と知り合いました。それがピーエーシー現社長の武井様、常務の浜野様でした。それからたびたび「みかん」でお会いすることがあり、酒を酌み交わすことになりました。残念ながらお店はなくなってしまいましたが、構造物物理学研究センターがクライオ電子顕微鏡という最先端の機器を設置するために、ピーエーシー様が研究棟の設備をご担当いただくということを知りました。人と人の繋がりの不思議さを

に驚くとともに、縁を感じざるを得ませんでした。さて、前述したクライオ電子顕微鏡ですが、1ダルの100万分の1ほどの大きさのタンパク質分子の形を、ほぼ原子レベルの分解能で明らかにすることができる装置で、これからのライフサイエンスには欠くことのできない装置です。このため、世界中の研究機関がこぞってクライオ電子顕微鏡を導入し、われわれの研究施設にも設置が決まったのでした。ただし、クライオ電子顕微鏡は非常に精密な機器で、温度、湿度、振動、磁場などの様々な条件を満たした場所に設置する必要があります。つまり、われわれの研究分野では空調などの環境設備は極めて重要なのです。特に日本の夏は高温多湿ですから要求は多くなるとも思います。このたび、われわれの実験室の大半をこれまでのプレハブの実験室から空調など含め真新しい実験棟に移すことができ、悲願であった研究環境を大きく改善することができました。大きく改善するだけでなく、研究活動を支える基盤で欠くことのできないものです。科学の進歩と共に設備に対する要求レベルは上がります。設備設計という新しい実験棟の要とも言える部分をご担当いただき、立派な研究設備を構築していただいたピーエーシー様に心より感謝申し上げますとともに、ピーエーシー様が研究開発の基盤を支える環境設備などの分野も含め、さまざまな分野の基盤を支えるべく、ますますのご発展を遂げることを祈念いたします。

LC C面がより重要な時代に

「声は多くあります。中途採用も同様です。省エネや持続可能性への関心が高まる中、設備技術者の需要は増加しています。しかし、需要に対して適切な数の設備技術者が育成されていないのが現状です。特にDXによる業務効率化が急速に進展し常態化しつつあり、デジタル環境の整備やネットワークの拡大

「会社」 「持続可能性」は様々な分野で一般化しています。建築保全センターは設立から40年以上が経過しましたが、当時とても斬新な組織であったと思います。奥田 建築保全センターが設立したのは1987年です。その頃、ストックの有効活用は、アイデアとしてはありましたが、大きな声で言われるほどの関心の高いテーマではありませんでした。直接のきっかけは、ナショナルプロジェクトであった筑波研究学園都市がその時期に概成したこと。世界水準の研究施設をどのように維持・保全していくかという問題意識があり、建築保全センターが生まれたのです。その後、建築投資は80年代、90年代と続きましたので、建築ストックも相当積み上がっていき、その有効活用の重要性も増してきました。そういう意味では、われわれの先輩は少し先見性があったのかなと、手前みそですけれど、そんな感じがします。

風がやさしい、水がやさしい、運ぶ機械がやさしい、人と地球にやさしい環境をつくり、つねに進化する第一工業。

空気 衛生 搬送
第一工業株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1(新東京ビル)
TEL:03-3211-8511 https://www.ichiko.co.jp

空気と水の環境エンジニア
SUGA
須賀工業株式会社
本社 03-4214-3400
URL: https://www.suga-kogyo.co.jp/

環境と未来の世代のために。
よりよい環境を受け継ぐために、子供たちのために。わたしたちは、その理想の姿を、未来の世代の視点で捉え、幅広い分野でSUGAの技術を活かしています。空気調和設備、給排水衛生設備、防災設備……、地球の環境を守りながら、人びとに快適な空間を提供する。英知を集めた(空気と水の環境エンジニアリング)は、世代を超えて、未来へ向かいます。

SANKEN
人と地球にActionを。

建物の未来を創造する。
地球の未来をつないでいく。
私たちは、持続可能な
新たな社会を支えてまいります。

三建設備工業

カイテキをサステナブルに。

世の中を快適にする仕事
三機工業

確かな技術力と誠実な姿勢



取締役相談役

時田 由紀雄

私がこの世界に入ったのは今から53年も前の昭和45年、大阪で万国博覧会が開催され、日本経済は高度経済成長期の真っ只中で建設産業界も絶好調の時期でした。建築設備の設計業は世の中にその存在が認識されてまだ日が浅く、設計に必要な技術資料も本当に少なく、設計計算はそろばんと計算尺を駆使してすべて手計算、図面はトレペに手書き、毎日残業の連続という体力勝負で乗り切った時代でした。

近年ではパソコンによる設計計算、シミュレーション検討やCADによる設計など、当時から想像も及ばない技術レベルと設計処理能力を獲得しています。

現在ではBIMによる設計の採用が急速に現実化する動きがあり、さらにその先にはAI技術を導入した設計が登場してくる日も遠くないと思われています。

このように設計技術や処理能力を高めるツールは時代とともにさらに進歩発展することは疑いようもありませんが、顧客の満足する設計の質を高めるため、これらツールを的確はそろばんと計算尺を駆使してすべて手計算、図面はトレペに手書き、毎日残業の連続という体力勝負で乗り切った時代でした。

全員が社長になったつもりで仕事を



専務取締役

沖館 順一

弊社はこの度創立60周年を迎えました。これもひとえに皆さまのご支援あってのことと感謝申し上げます。役員に就任し数十年が経過しますが就任時に創業者の仲田 潔より両手で力強く握られ、「会社を頼むね」と申し渡されたのが未だ脳裏に焼きついております。

・適正に活用できる技術と誠実な姿勢を身に付ける日頃の努力が何より大事と思う昨今であります。

用途が増え、同時に設備要求も非常に多くなってきています。社会の変化に順応し対応できているのは、創業より当社の強みである多用途に取り組んできた諸先輩方が築きあげてくださった伝統の賜物です。常に新しいものに挑み、吸収していくことを継続していかなければなりません。最後に、50周年の際に仲田が記した文面を読み返し、創業の精神である「全員が社長になったつもりで仕事を」を社員一同へ浸透させ共に邁進し、社会で必要と思われる企業となるよう更なる社会貢献に努める所存でございます。

今後とも、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

水系設備設計への挑戦願う



専務取締役

遠山 衛

道路にも設備がある。当社の道路設備設計は50年余り前、種田役員(事務所創立時メンバー)まで遡る。主に水系の設備設計に定評があり「水のPAC」と言われたものである。水系の設備には、トンネルの消火設備、汚水処理設備、融雪設備、路面排水ポンプ設備などがあ

や放出した消火用水などは自然流下で排水されるが、トンネル内が低い場合には貯水槽を設けポンプで排水する。これが路面排水ポンプ設備である。貯水槽には雨水も流入する。路面排水ポンプ設備はn年確率(例えば20年確率)降雨強度に対応して設計される。しかし近年、50年に一度などと呼ばれる豪雨が毎年のように起こっている。能力不足が心配である。

道路の水系設備設計の分野では、他社も含め後継者不足が深刻なようである。建築設備と共通点の多い分野である。建築設備の設計技術者にも挑戦して欲しいと願っている。

生産性向上と人材不足解消へ



常務取締役

飯島 健司

BIMはBuilding Information Modellingの略称で、コンピューター上に作成した3次元の建物データに属性情報、コスト情報、管理情報などのデータを追加し建築の設計、施工から維持管理までの情報活用を目的とした社会基盤とワークフローの意味も含まれていると感じています。

弊社では30年前より設備専用CADを使用してきました。また、2005

年にリリースされた同設備CADにおいて3次元作図が可能となり設計に活用してきました。

2000年以降、建設業界にもCADが普及、定着してきましたが、なぜ今「BIM」なのでしょう。BIMとCADとの違いは3Dデータに付加情報が活用できるか否かです。

弊社も昨年BIM対応ソフトの導入を図りましたが、コスト情報や他ソフトとのデータ連携の過渡期でありBIM普及へのスタートと感じています。

今後BIMに設計業務、普及活動を通し、各種情報などを生かした社会全体の生産性向上、ひいては建設業界における人材不足解消に貢献していきたいと考えています。

人材確保し魅力ある業界に



常務取締役

浜野 新太

我々の業界は常に人材不足に悩まされていますが、昨今その傾向がより強くなっています。月に少なくとも4、5社の新規企業様より問い合わせがあります。残念ながら業務過多で辞退するのが大半となっております。

これは当社OBを含め、団塊の少し上の世代で日本の高度成長期を生き抜いた先人たちが業界から引退されたことが大きな要因と思われま

す。この大きな穴埋めを今後してい

かねばなりません。日本を含めカーボンニュートラルを目標に掲げていますが、現状を把握できているのでしょうか。設備業界に対する需給バランスが大きく崩れて

特設設備における電気ウエートは年々増えています。しかしながら、大学などにおける建築学科での電気専攻新設はほぼ増えていないのが現状です。同じく省エネ計算業務を志す人材も増えています。業界全体で考える必要があります。

当社としましても協会活動等で上記課題解決へ努力したく考えております。

設備設計技術者の地位向上をはかり、より魅力ある業界にし、少しでも多くの人材を確保することが今後の大きな課題です。

BIMの時代訪れ技術力蓄積



取締役 仙台支所長

月野 智弘

私が入社した昭和60年当時は、平行定規で図面を作成して

CADのバージョンアップについていくのがやっとなのに、これからはBIMの時代が訪れそうです。建物ライフサイクル管理、施工管理に必要な情報を設計段階で構築する必要

あと数年たつと情報の共有化、標準化によりBIMの普及が加速すると思

これまで以上のスキルが求められるようになりますが、気負うことなく、これまでと同じように日々興味を持ち、向上心を持ち、技術力の蓄積を行い、仕事に励んでいきたいと思

コツコツ真摯に取り組む努力



電気設備設計グループ統括

岡崎 真也

私が生まれる前には、すでに開業5年は経過していると思うと、同じ世代を共に歩んだように思われま

務に携わり先輩方に質問をした時、とても細かく丁寧にご教示頂き、また付随する事柄まで教えて頂きました。

自分でなるべく調べる、考えることを心掛けていますが先輩方の技術力を盗みたいということもあり、多々質問させて頂いています。

積み重ねてきた過去の物件、文献も膨大にあり参考にできる図面、計算書、資料なども多く、それだけでも強みであると思

業務を行う上でのミスはつきものですが、システムの変更などは到底終わらないボリュームであり、突然の設計工期の短縮などの突発的な危機も誰となく協力し完了させるなど社員の団結が強いと思

動続して十数年ですがいろいろとありました。創立から考えれば、沢山のことがあったと思

高度な医療設備の進化に対応



取締役

竹澤 聡

手術室への医療的・高度な設備対応が重要となってまいりました。それに伴うICU、CCU、HCU、GCUなどさまざまな患者さんに応じての集中治療室の設備対応も必要です。X線については、CTをはじめと

して磁力を応用したMRI、陽子を用いるPETなどの診断装置や超音波診断、内視鏡検査の運用に対しても医療的な設備対応が必要とされています。これらはコンピューターによる制御やデジタル化された画像情報を病院内だけでなく病院間の通信も要求されます。

それに加えて電子カルテや電子カルテを利用した地域連携、病院間連携、病院-診療所連携など地域ネットワーク型電子カルテの運用も進められて

また神戸、東北の震災により国からのガイドラインも示され防災・避難・耐震・災害対策について設備的対応が多く含まれています。これらの進化に対応した病院設備設計を進めてまいります。

新時代のインフラ力強く



社外取締役 タタルデザイン代表取締役

齋藤 多聞

60周年おめでとうございます。早いもので本役を拝命して10年余りの月日が経ちました。その時は東日本大震災から、東北を筆頭に日本全体がどう復興するか全国民が模索しているような世の中でした。未曾有の大地震だけでなく、それに起因した津波と原発の問題は、われわれにとって未知の体験であり、物質的には勿論、精神的にも大きなダメージを落とし、それまでの災害復興

ではカバーしきれない新たな問題を人々の暮らしに問題提起することになりました。

私たちPACは暮らしのインフラに大きく関わってきました。先進的な国家案件から華やかな商業施設の設備設計まで幅広く貢献しています。その間に社会の人々の暮らしが激変し、この10年でインフラリニアに求められるものは、本当の意味での豊かさや、全ての人や自然への優しさを強く意識しなければならぬようになりました。それは背景義務ではなく、その時代をデザイン設計するクリエイターのモチベーションになっているはず

です。過去に囚われすぎず、失敗を恐れず、これからも新しい時代のインフラを力強くクリエイティブに続けましょう！

Panasonic

パナソニックの業務用空調は省エネ・快適な空間を創造します

電気 ガス ガス/廃熱

オフィス・店舗用エアコン ビル用マルチエアコン ガスヒートポンプエアコン ナチュラルチラー

ナノイーX標準搭載

nanoeX

ナノイーX搭載室内機で屋内空気も快適に。

※ナノイーX対応機種については、別途お問い合わせください。(ナチュラルチラーは対応していません)

パナソニック株式会社 空調空調社 〒131-0045 東京都墨田区押上1-1-2
ソリューション・エンジニアリング事業本部 TEL:03-6364-8886

setsubism

いい環境がいい未来をつくります。

日本設備工業株式会社

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町36-2 Daiwaリバーゲート19F(北ウイング)
TEL:03-4213-4900 FAX:03-4213-4907 https://www.nihonsetsubi.co.jp

西原のこころ

良心的で行き届いた仕事をする

株式会社 西原衛生工業所

東京都港区芝浦4-2-8 三田ツインビル東館(本社) TEL(03)5427-6080
本店/首都圏・大阪 支店/札幌・東北・横浜・名古屋・九州
事業内容/給排水衛生設備、冷暖房設備、消火設備の設計、施工
http://www.nishihara-eng.co.jp/

東熱

技術で、未来に挑戦

地球環境に優しく、子供たちの未来のために「技術の東熱」は挑戦を続けます。

技術、人と地球のために

東洋熱工業株式会社 〒104-8324 東京都中央区京橋二丁目5番12号
TEL:03-5250-4112 www.tonets.co.jp

KOWA

技術と創意で自然を活かす環境づくり

「快適な生活と美しい自然環境の保全」この両者がそが興和のテーマです。

私たちは「奇」から建築に社会を守り続けることを使命に、消滅型技術・防災技術の開発と研鑽を積み重ねてまいりました。

再生可能エネルギーを活用した持続可能な消滅型技術で、皆様の暮らしに安全と安心を提供するとともに、皆様の未来、地球の未来に貢献いたします。

地中熱ヒートパイプ設備

▶電気もガスも使わず暖房・凍結防止

▶つまり・汚染防止

▶カーボンニュートラルに貢献します

株式会社 興和

本社 / 〒950-8565 新潟県中央区新発町6番地1
TEL:025-281-8811 FAX:025-281-8833
支店 / 東北-北陸-関東-中部-上越-北信
営業所 / 札幌-青森-山形-高松-長野-岡谷-新潟-十日町-糸川-東京-福岡
Email: ans@kowa-net.co.jp

Environmentally Friendly

各種オイルタンク製造・販売・メンテナンス

株式会社 JOTA

〒322-0026 栃木県鹿沼市茂呂244-10
TEL:0289-76-4910 FAX:0289-76-4911

URL http://www.jotank.com

SFタンク設備等 KHK型式認定取得

鋼製地下タンク FRP内面ライニング 事業者認定取得

JAPAN OIL TANK ASSOCIATES JOTA

建設プロダクト

CONSTRUCTION PRODUCT YAMATO

基本計画 設計 施工

資産管理 マネジメント

建物製品のご購入の際に、比べていただく情報を発信いたします。

ヤマト

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844
TEL.027-290-1800(代) www.yamato-se.co.jp

時代はますます、技術にまじめです。

日比谷総合設備株式会社

〒108-6312 東京都港区三田3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館
TEL:03-3454-1385 FAX:03-3454-4260 https://www.hibiya-eng.co.jp/



コーポレートマークは、私たちの目指す「新しい考え方の提案企業」「人間的で暖かく、エネルギーギッシュな集団」「誠実で信頼できる企業」を表現しています。

さらに、関わり合うさまざまな企業を頭脳とするなら、各々の頭脳から発する異なった波長が、重なりあいお互いに影響しあって、新しく合成された波が生まれてくると考え、全体にやわらかい波のイメージのデザインに、英語のPAC(妖精)の音楽的な響きをとりいれました。また、フレッシュなグリーンと知性・誠実さを表すブルーが混じり合った深みのある色を、コーポレートカラーとして用いました。PACは、Plumbing and Airconditioning Consultantの頭文字からとっています。



総合力身につける重要性



技術顧問 佐久間 進

50年前は基本設計、図面、計算書、積算書など、すべて手書きの時代でした。ドラフターや電卓を使い設計には多くの時間を必要としました。現在はP C作業に置き換わり、大幅な時間短縮が可能となりました。最近のA Iの進化は、手書きからC A Dへの移行時以上に大きな変化をもたらす可能性があります。このような時代に向かい、最新の知見を得て、基本的な知識の確認と総合的力を身につけることがますます重要になると考えられます。

働きやすさと地域社会に貢献



電気設備設計グループ部長 海老原 怜

当社ではC S R活動の一環として、設計業務において施主様に対して、より効率の良い機器提案を盛り込んだり、使い勝手のよい配置計画を提案し、満足していただけるように努めています。今後はより働きやすい職場環境の構築と地域社会に貢献できる活動を目指すと共に、技術力の向上にも努めていきたいと考えています。

あらゆる可能性を探し続ける



電気設備設計グループ主任 佐藤 寛子

商業施設を設計する上で重要なのは工事区分です。施主の所有建物なのか、テナント入居するのかが作成する図面が変わるとともに工事費にも影響がでるため、慎重な確認作業が必要になります。電気代高騰や物価高が続く、よりライフサイクルコストを考慮し設計することが不可欠ないま、施主の要望に応え、省エネおよびコスト削減を目指し設計することは容易なことではありませんが、カーボンニュートラルの達成を願い、あらゆる可能性を探し続けていきたいです。

長く住める・住みたい住宅づくり



機械設備設計グループ次長 高橋 一充

共同住宅において配管の劣化を完全に防ぐことは難しく、年月と共に少しずつ劣化していくものである。経年劣化を防げないのであれば劣化速度の遅い材料を使用することで、給水管、衛生設備の劣化を遅らせ、住宅を長持ちさせることで資産価値を低下させないことに繋がり、劣化が遅ければ改修や更新の負担を減らすことも繋がります。長く住める・住みたい住宅づくりを考えております。

建築確認の重要性



機械設備設計グループ次長 田口 康彦

建築物を建てるには建築基準法に適合しているかの建築確認が必要ですが、この法律は事故・災害・事件などから頻りに改正される「進化する法律」です。設備関係法も建築物の多様化に伴い増え、意匠ほかの法文にも複雑に関係してきました。近年では省エネ適合義務も加わり、建築基準法と設備の関係性は高まるばかりです。基準法違反建築物への厳罰化もあり、いままですら以上法文を理解し建築確認を行うことは重要であると思います。

多方面配慮の設計とたゆまぬ努力



機械設備設計グループ主任 青山 広子

長く続いたコロナ禍の影響で教育施設の設計業務の中でC O₂ センサーやC O₂ センサー内蔵機器の導入も一般化しつつあり、室内環境への関心が高まっているのを感じます。教育施設は学生や先生は元より多くの方々を訪れる場所でもあるので、ニーズに応えるべく多方面に配慮した設計を心掛け、努力を続けたいと思います。

時代の変化による意識を更新



機械設備設計グループ 木内 裕介

令和1年に入社し、今年度で5年になりました。携わる物件の数が増えてきた中、情勢によるニーズの移り替わりを感じております。コロナ禍では規定値以上の換気設備を求められることがありました。また、Z E B補助金制度が充実し始めてからは、取得を求め物件が増えてきたと感じます。変化するニーズに対応するために、常日頃からアンテナを張り巡らせるようにしていきます。

発想の転換求められる時代



営業・総務グループ営業部長 手代木 裕一

新型コロナウイルス流行後、急速にテレワークやウェブ会議化が進んだことにより客先を訪問する機会も、非訪問での対応となり、電話とメールだけで案件受託などという状況にもなりました。この状況をよしとしない方も居られるだろうし、訪問しなければならぬ状況もあるでしょう。しかしそこは使い分け次第です。移動時間・待ち時間をさらなる営業活動にあてれば、結果として実質的な受注機会増大につながります。発想の転換を強く求められる時代です。

省エネ対策に様々な提案



電気設備設計グループ部長 田端 倫宏

高齢化が進む現代社会において、高齢者施設はますます重要な存在で建設数も年々増加傾向にあり介護度や認知症の有無によってさまざまな種類の施設があります。弊社も年に数件携わっていますが事業者の考え方で運営側や利用者の仕様も施設によって違うため法的基準や要求内容をよく理解し設計することが重要です。施設の特性上、使用を抑えることが難しい設備の省エネ対策についてもさまざまな提案ができればと考えています。

チーム全体のつながりで成長



仙台支所電気設備主任 山縣 卓哉

意思伝達、お互いのスキルアップを意識し業務に取り組んでいます。週初めの朝に会議の場を設け1週間の作業、施主や業者への対応の確認など作業内容や時間を可視化し効率を高めています。また、検査時に出た指摘は書面に残り情報共有し今後の図面に反映し精度を高めています。組織構築においてチーム全体で密に連絡を取り合うのが下の者を引っ張っていくことでお互いのスキルアップにも繋がりがより良い会社づくりになると考えています。

多様な課題に対処できるよう努力



機械設備設計グループ 大塚 優衣

ピーエーシーに入社して5年目を迎えました。入社当時の私は、設備設計について浅い知識しか持ち合わせておらず、未熟でしたが、上司や先輩方からの指導や経験を通じて、成長することができました。設備設計には、プロジェクトごとに異なる課題があり、正解が明確でないことも多く大変ですが、より高度な知識や技術を習得し、課題に対処できるよう努力していきたいです。

知識増やし資格にも挑戦



機械設備設計グループ 鳥居 麗

入社して1年が経ち、さまざまなことを学んできて、設備は生活に欠かせないものだと感じています。そのため、便利に快適な生活ができる設備設計をし、お客様の要望に応えられるような設計者になりたいと考えています。また地球温暖化が問題になっており、そういった問題にも配慮できるようにもなりたいです。そのためにも知識をたくさん増やし、資格などに挑戦していこうと思います。

デジタル化の流れに自己研鑽励む



営業・総務グループ総務部長 藤野 芳之

令和5年10月1日から、消費税の仕入税額控除の方式として「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が開始されます。インボイスの発行、返還インボイスの発行、修正インボイスの発行、写しの保管といった義務が課されます。電子インボイスの提供も認められており、デジタル化の流れは急加速するものと思われまます。この流れに取り残されないよう、創立70周年、80周年さらには100周年を見据えて、自己研鑽に励んでいきたいです。

株式会社ピーエーシー

一級建築士事務所 東京都知事登録第14836号

- 設立 1963年5月(昭和38年)
- 資本金 4,800万円
- 社員 66名
- 本社 東京都台東区浅草橋4-2-2 D's V A R I E 浅草橋ビル2階 TEL 03(5809)2630 (代) FAX 03(5823)0950
- 仙台支所 宮城県仙台市太白区長町1-5-6 A Iビル TEL 022(246)7791 (代) FAX 022(246)7794
- 名古屋連絡所 名古屋市中川区服部1-806 TEL・FAX 052(432)2451

- 役員一覧 代表取締役 武井一義 取締役相談役 時田由紀雄 専務取締役 沖館順一 専務取締役 遠山衛 常務取締役 飯島健司 常務取締役 浜野新太 取締役仙台支所長 月野智弘 取締役 竹澤聰 社外取締役 齋藤多聞
- 所属団体一覧 (一社)日本設備設計事務所協会連合会 (一社)東京都設備設計事務所協会 (公社)国際観光施設協会 (一社)建築設備技術者協会 (公社)空気調和・衛生工学会

NDC

日本ドライケミカル株式会社

代表取締役 長 遠山 榮一

東京都北区田端一丁目一五〇番八

東テク株式会社

代表取締役 長 尾 克己

東京都中央区日本橋本町三丁目一七〇番一

株式会社ケアコム

代表取締役 長 池 川 充洋

東京都調布市多摩川三丁目一三番一

株式会社荏原製作所

統括部長 岡 崎 裕

東京都大田区羽田三丁目一六番一

アイホン株式会社

代表取締役 長 鈴 木 富雄

名古屋市中区新栄一丁目一〇番一

大成設備株式会社

代表取締役 長 田 行 啓一

東京都新宿区西新宿三丁目一〇番一

川本工業株式会社

代表取締役 長 川 本 守彦

東京都港区芝田一丁目一〇番一

川崎設備工業株式会社

代表取締役 長 廣 江 勝志

愛知県名古屋市中区大須一丁目一七番一

貯める、支える、くらしのために。

ステンレスパネル水槽

MORIMATSU

森松工業株式会社

本社 〒501-0413 岐阜県本巣市見延1430-8 TEL 058-323-0333 FAX 058-323-4969

【東京支店】 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビル4F TEL 03-5360-3551 FAX 03-5360-1250

Fuji Kiko

高い技術力と高品質が生み出す水の未来。お客様により豊かな水の環境をご提供いたします。

「通過装置の設計・製造・販売・メンテナンス」

フジキョー株式会社

本社 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-5 (OS 85ビル) TEL 03-6214-1701 (代表) FAX 03-6214-1710

沖繩営業所 〒904-0032 沖繩県沖繩市議見里3-43-7-101 TEL 098-989-8341 (代表) FAX 098-989-8342

東洋バルブ

新製品 給水用途の切り札、ここに誕生。

残留塩素に対する耐久性4倍以上!! (弊社EPDMシート比)

給水・給湯用として実績豊富なFKMシートに比較し、給水用としてリーズナブルな価格を実現!

日本水道協会基本基準認証品! (特注品) 給水用途に最適!

耐塩素EPDMシート 給水用アルミバタ弁

DAISIA VENT CAPS

風雨に強い 大佐のベントキャップ

www.web-daisia.co.jp

DS-YFGT DS-KBGU DS-MBG-TH DS-TD

株式会社大佐 Daisia Inc. 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-39-14 TEL 03-3806-5101